ヨコハマの子ども・若者の成長を応援する人たちへ

YOKOHAMA EYE'S 2019

特集1

特集2

基調

孤立予防のために

地域ができること

2019年度子ども・若者エンパワメントセミナー 地域のまなざしと「ひきこもり」

> ~地域で孤立しがちな青少年へのまなざし~ 斎藤環(筑波大学)

1 当事者会運営者の立場から伝えたいこと 割田 大悟(ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜)

2 「多様性」と「共生」が成り立つ地域社会へ 『よこはま西部ユースプラザの取り組み』―

3 青少年の地域活動拠点における種まき活動 岩堀 まゆみ (栄区青少年の地域活動拠点 フレンズ☆SAKAE)

4 "孤立の芽"は心の中に ~ 寄り添い型生活支援事業の現場から~ 守田 洋(公益財団法人よこはまユース)

5「ここに来るとゆったり時間が流れている」 ~若年女性の就労体験の場"めぐカフェ" 小園 弥生(男女共同参画センター横浜南)

6 外国につながる子どもの日本語・学習教室の現状 井草 まさ子(認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ)

一若者自立支援を通じて地域をデザインする 池田 正則(よこはま西部ユースプラザ)



10代に聞きました!

横浜における青少年の 文化活動に関する調査報告

梨本 加菜(鎌倉女子大学)

公益財団法人よこはまユース



はじめに

「YOKOHAMA EYE'S 2019 |をお届けいたします。

現在、地域からは「地域の担い手であるはずの中高校生世代と関わりたいが接点がない」、「昔は非行防止などわかりやすい課題があったが、今は青少年が抱える課題が見えない」などの声が聞こえてきます。

私たちは「地域」で見え難くなってしまった青少年たちをどのように理解したらいいのでしょうか。そしてどのように応援をしたらいいのでしょうか。

本号では特集テーマを『地域で孤立しがちな青少年へのまなざし』とし、理解への ヒントと地域で行われているいくつかの取り組みをとりあげました。

特集1では、今年度の子ども・若者エンパワメントセミナーの内容(地域のまなざしと『ひきこもり』)をご紹介します。「社会的ひきこもり」という言葉の名付け親である斎藤環先生から、「社会的ひきこもり」状態への理解と、世間的な"偏見"を取り除くことの必要性、年代に関わらない"対等な対話"の可能性などについてお話しいただきました。

特集2では、社会参加が難しくなってしまいがちな青少年・若者への地域や「居場所 | などでの取り組みを寄稿いただきました。

まず、ひきこもり状態を経験したことのある当事者グループからは、決めつけられることに対する違和感や多様性の尊重など貴重な提言がなされています。そして、地域拠点の取り組みとして「地域ユースプラザ」からは多様性と共生が成り立つ地域社会の実現、「青少年地域活動拠点」からはそのための継続的関わりの可能性など、多くの示唆に富む報告がなされています。

次に「居場所」からは(困難を抱える)小学生から中学生までが通う「寄り添い型生活支援事業所」、働きづらさに悩む女性が集う「めぐカフェ」、外国につながる子どもたちのための「日本語・学習教室」など、孤立につながりがちな青少年を「包摂」するためのいくつかの取り組みが報告されています。

また巻末には、横浜における青少年の文化活動に関する調査報告の結果を掲載しました。

これらをお読みいただき、子ども・若者の成長を応援する際の参考にしていただければ幸いでございます。

これからもよこはまユースは、青少年ならびに市内青少年団体のサポート役としてその役割を担ってまいります。皆様におかれましては引き続き横浜市の青少年活動にご理解・ご協力をお願い申し上げます。

2020年3月末日 公益財団法人よこはまユース 代表理事 大向 哲夫